

相模女大 ○川村キミ子 山梨県立女短大 小菅啓子 東京家政学院短大  
高野美栄 田原靖子 東京家政大 長塚こずえ 赤池照子

目的 21世紀に向けて人々の価値感が大きく変化し、物より心へ、豊かさが求められる時代となった。急速に進む高齢化は多方面でひずみがみられ、老年期のよりよい生活環境づくりが問題化されてきた。その一環として本報は、性別による色彩嗜好について、成人前期、中年期、老年期を発達段階に調査して、それぞれの特性を考察し検討したので報告する。

方法 1) 対象 2) 調査時期 3) 手続 4) 色彩の観察、5) 地域別 1～3報と同様 6) 年齢 成人前期・25～34歳、中年期・35～64歳、老年前期・65～74歳、老年後期・75歳以上 7) 調査場所 1群・老人クラブ1、老人ホーム2、敬老館3、在宅他、2群・老人クラブ10、老人ホーム4、敬老館1、在宅他、3群・老人クラブ2、老人ホーム1、敬老館6、在宅他、4群・老人ホーム9、在宅他。

結果 性別色彩嗜好は、嗜好色が男はPB系の群青色、こい紫みの青、G系のマラカイトグリーン、女はPB系群青色、暗い紫みの青、R系のうすい紫みの赤が上位となる。嫌悪色は、男女ともR系であざやかな赤であるが、男女の色彩嗜好は潜在的なものに左右される。女が男より色彩に対し関心が強くみられ、特に和服と結びつけていることは、前報と同様である。発達段階において、男はあまり変化はみられず、嗜好色にはPB系、G系に対して、女はR系、PB系、P系と加齢に伴い明るい色彩から、灰味を帯びた色彩へと移行がみられる。嫌悪色は年代にかかわらず赤であるが、老年期に黒が嫌悪色となっていることがわかった。